

2018年(平成30年)10月25日(木曜日)

市民協働 活動を後押し

三島のNPO 台湾の大学と交流協定



翻訳本出版 教材に

三島のNPO法人「ゲラウンドワーク(GW)三島」が、台湾の国立雲林科技大学と人材育成や学術研究交流に関する協定を結んだ。台湾では専務理事の渡辺豊博さん(左)の著書「先

か？」が中国語に翻訳されて出版される動きもあり、渡辺さんは「三島の市民協働のまちづくりが台湾の地方創生のモデルになれば」と話す。協定により、同大の学生や准教授クラスの教職員を

①人材育成や学術研究交流に関する協定を結ぶ渡辺豊博さん(左)と方国定副学長(右から2人目)＝台湾の国立雲林科技大学で
②「地方創生的挑戦 日本NPO的在地創業」の表紙



研修生として受け入れる。地元の源兵衛川を再生する活動などで培ったノウハウを伝え、情報交換もする。GW三島が海外の大学と協定を結ぶのは三方所目。協定締結は十二日に国立雲林科技大学で行い、渡辺さんと方国定副学長が調印書を交わした。

渡辺さんの著書は「地方創生的挑戦 日本NPO的在地創業」という題名で出版された。出版したのは、GW三島と交流がある生涯学習機関「社区大全国促進会」で、本は一万部発行し、教材として活用される。

渡辺さんは「行政の権限が強かった台湾でもまちづくりや環境再生の活動など

で住民との協力が求められるようになってきた。持続可能な活動をするための知恵を提示できるのではないかと期待する。

(佐久間博康)